

4月から不燃ごみの 資源化施設が本格稼働

計画の大幅な見直しが見直しが提案

練馬区に新たな
清掃関連施設が竣工

練馬区では、令和4年4月より『不燃ごみの資源化(中継)施設』が本格稼働することになりました。この稼働により、不燃ごみに関わる計画を中心に大幅に見直されることとなります。

計画は、不燃ごみの搬入については全量を当該施設へ搬入し、使用する車両についても、現行の小型プレス車から小型排出車へ変更、不燃ごみの収集曜日や時間帯等も見直されました。

さらに、可燃ごみの計画についても見直され、これまでの併せ作業から、

ら、可燃班と不燃班に区分、ごみ種ごとの班体制となりました。

持続可能な「職」の確立を目指して

東京23区の清掃事業をみると、多くの区で正規職員の採用抑制が行われ、もはや、会計年度任用職員等の活用なくして事業の継続は困難である」と言っても過言ではないでしょう。

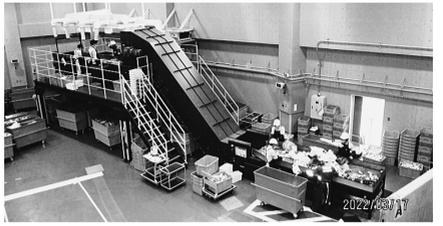
収集、平成27年度には可燃・不燃ごみの一部を委託してきました。そして令和4年度、新たな事業『中継施設』の運用を公社が担うことになりました。

これは、清掃事業に携わる労働者の賃金労働条件等を行政が責任を持って履行し、官民が主体的に事業を展開する体制を確立した一つの形であると考えます。

練馬区の清掃(リサイクル)事業には、様々な業種の労働者が事業に携わり、環境衛生また資源循環型社会の形成に向け

新年度を迎えた4月中旬、大きく舵を切った新たな計画により清掃事務所および現場では未だ混乱はあるものの、今後通常業務へ戻すための対応について関係各所と様々な協議・連携を図り、新たな事業をより発展的なものへと繋げていけるようあります。また、事業委託する際も同様です。その一つに、清掃事業の委託先に練馬区の外郭団体である「環境まちづくり公社(以降、公社)」という新たな事業委託のあり方を導き出しました。平成22年度に容器包装プラスチックと粗大ごみ

いま No.40 清掃事業は… 練馬区



▲搬入された不燃ごみを粗選別(右下段)した後、手選別(左中段)を行う。

練馬区担当中執(中村 義宣)

お仕事探検隊シリーズ第2弾

「ごみ清掃のお仕事」が発売

エッセンシャルワークについて楽しく学べる1冊!

お仕事探検隊シリーズの第2弾『ごみ清掃のお仕事』が、東京清掃の元組織部長である押田氏(現・人権・交流会会長)を中心として作成がされたこの度発売となります。文字とおり、社会を支える、清掃職場のエッセンシャルワークについて楽しく学べる仕様となっています。



(栗澤 紀和)

昨年6月にプラ新法が国で可決され、この4月から施行されています。昨年の自治研集会では、環境省の平尾リサイクル推進室長を講師にむかえ、説明を受けてきました。石油から作られ、瞬時に使い捨てられるプラスチックが自然環境中に流し失われ、半永久的に残り続けるごみ。日本では、ごみは分別収集され、資源はリサイクルされている「そんなリサイクル先進国のイメージとは裏腹にプラスチックごみへの対応は、日本でも切迫した課題となっています。リサイクルの幻想を超えて、使い捨てプラスチックを削減していくために、我々に何が求められるのか、解決の道筋を探るとともに、あらためて学習していく必要があるかと思っています。

このDVDは貸出可能ですので、ぜひ、各地連・各支部での学習会にご活用ください。その際は渡辺書記次長まで連絡を。

(栗澤 紀和)



(栗澤 紀和)

「ひとこと」

▼「どうして私はこうなってしまったのだろう」31年の時を歩んできた中で、ふと、思いを巡らせる時があります。秀でた才能も無い、私の人生に大きな変化を与えたのは、労働組合という存在でした。▼はじめは、組合は何のために存在し、活動をするのか。その意義や目的すらも理解できていない中で活動を進める毎日に、自分の自由な時間も減り「つらい」「辞めたい」と思うことも少なからずありました。改めて、今日まで共に闘い抜き、支えてきてくれた仲間へ、感謝と敬意を表します。

▼なんの取柄もない私ですが、貫きたい信念が1つあります。それは『無限の出逢いのための感謝』です。私たちは、生きていくうえで様々な人と出逢います。長い付き合いになる人もいれば、たった一度の出逢いで終わる人もいるかもしれません。それでも、その人との出逢いや係りを持ったことに、私は常に感謝の気持ちをもって生きたいと思えます。「ありがとう」その言葉をこれからも大切に、今後の運動に活かしていきます。

(青年部長 高野 飛鳥)